

「医師の働き方改革」がスタートします

—医師の長時間労働改善に向けた取組にご協力ください—



2024（令和6）年4月から、①時間外（夜間・休日）の労働時間の上限、②連続勤務時間の上限、③勤務間インターバル（連続した休息時間）の確保、などが勤務医に適用されます。

➡ **できるだけ平日・日中に診療を行えるよう、ご協力をお願いします**

- 病状・検査・手術の説明は、緊急時以外は平日の日中に行います。
- 緊急性のない軽症の患者さんは、夜間・休日の救急外来受診を控えてください。
- 夜間・休日の救急外来では、重症でない限り、専門医の診療は翌日以降になる場合があります。

➡ **“いつもの先生”以外の医療スタッフの対応にご理解をお願いします**

- 当院では、複数担当医制とチーム医療を進めています。
- タスク・シフト/シェアを推進し、教育・研修を受けた看護師や薬剤師等が医師に代わり初診時の予診・検査手順の説明、服薬指導等を行います。

当院は地域医療支援病院として、「二人主治医制」によるかかりつけ医師／歯科医師との紹介／逆紹介を進めています。



患者さんのサポートや花壇の手入れなどをしていただけるボランティアさんを募集しております

ボランティアの皆さんは当院を利用される方々に頼りにされ活躍されています。平日の8時30分から17時15分の間で、ご都合のよい日に活動していただけており、報酬はありませんが年に一度当院にて無料でインフルエンザの予防接種や健康診断を受けられます。活動内容の詳細やご興味のある方は、下記までお問い合わせください。



【お問い合わせ先】総務人事課 ☎(代)0479-63-8111(内線2413)

基本理念

すべては患者さんのために

私たちは地域の皆さまの健康を守るために、常に研鑽に努め、医学的にも経済的にも社会的にも適正な模範的医療を提供します。

地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

www.hospital.asahi.chiba.jp
〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111(代) FAX.0479-63-8580



- 初診外来受付時間…… [7:45～11:00]
自動受付機は、6:30からご利用いただけます。
- 自動精算機稼働時間… [7:00～20:00]
- 駐車場巡回バス……… [8:30～14:00]

家庭で役立つ
健康
豆知識

花粉症とくすり



花粉症の有病率は2019年の時点で4割超にのぼると関連学会の調査データがあり、多くの国民を悩ませ続ける社会問題です。政府も花粉症対策に取り組んでいて、その中の一つに全国の花粉情報の集積というものがあり、旭中央病院でも花粉測定を行って旭市のデータを供出してあります。

春先の2月から4月の関東地方での花粉症は主にスギ花粉であり、この場合スギ花粉をアレルゲン（アレルギー反応の原因となる物質）として、ヒスタミンなどのアレルギー症状を引き起こす物質が体内で放出され、アレルギー反応が起こります。

症状としてくしゃみ・鼻水型と、鼻づまり型があります。またアレルギー性結膜炎も高い頻度で合併します。治療に使われる薬をご紹介します。

抗アレルギー薬

花粉症に対して初期から予防的に用いられます。抗アレルギー薬は体内でヒスタミンが放出されるのを抑える作用があり、鼻づまりに対しても有効とされています。

抗アレルギー薬は遅効性なので、花粉が飛び始める1～2週間前から予防的に飲み始め、飛散時期が終わるまで飲み続けることが効果的です。アレルギー性結膜炎に対しては点眼薬を用います。

第二世代抗ヒスタミン薬

放出されたヒスタミンが働くのを抑えます。効き目が早く、症状として出現しているくしゃみ・鼻水を止めるのに有効です。食事や併用する薬との効き目が、弱くなったり強くなったりするものもあるので飲み方に注意してください。一部の緑内障や前立腺肥大の方は使用できません。

第一世代に比べると眠気や抗コリン作用といった作用が弱く、運転や危険を伴う作業をする場合の危険性は減っていますが、引き続き注意は必要です。

ステロイド外用剤

ステロイドは炎症を鎮める作用が強力な薬で、アレルギーにとどまらず多くの急性疾患に用いられます。花粉症では主に点眼薬や点鼻薬として使用されます。ステロイド点鼻薬の場合、頓用では効果が期待できないため、正しい使用方法や回数で使用する必要があります。

症状が強い場合は内服治療を選択する場合がありますが、その場合は効果が強力で副作用も強くなるのであまり長期での使用はできません。（一週間程度）

分子標的薬

上記の治療では効果がない重症のアレルギー性鼻炎の場合に対象となります。12週を目安に4週間ごとに皮下注射します。この治療は抗ヒスタミン薬と一緒に使用します。注射薬ですので治療を受ける方のストレスは大きくなります。

薬剤局 菅谷敏和